



プロも苦戦! 種なし西瓜の 育苗に挑戦!!



果菜類の育苗で、最高峰の技術が要求されるのが「種なし西瓜」の発芽。プロでも苦戦するこの「種なし西瓜」の育苗にチャレンジします! 成苗率80%を目標に気合い入れてスタート!

1 今回チョイスした育苗箱は、やや深めの小型のタッパーを100円SHOPで購入。底に排水用の穴をまんべんなく開けておきます。「種なし西瓜」はデリケートですので、他の作物とは分けて専用育苗箱をひとつ準備しましょう。



拡大
穴をたくさん開けます。

2 育苗培土を八分目まで入れて、トントン叩き均一に鎮圧。水をたっぷりと灌水ししっかりと底まで水を入れます。そして一日、日陰で放置します。余計な水はゆっくりと排水され育苗培土に均一に水が回り育苗箱の中の環境が整います。



必ず日陰で一日放置します。
(とても重要な作業です。)

3 同時に種子の準備にも取りかかります。「種なし西瓜」は水分には特に敏感です。袋袋に封入されている種子は非常に乾燥しております。いきなり播種するのではなく、1日袋から出して、空気中の湿気に慣らせておきましょう。

注 水に直接浸漬させては絶対にいけません。給水し過ぎにより休眠または死滅の危険があります!

4 ペンの背などで播種穴を開けます。覆土は種子の厚みの三倍が基本です。西瓜の場合は約5mmが適当です。種子は立てたりせず横に寝かせて播種しましょう。今回は発芽率がわかりやすいように10粒播種します。

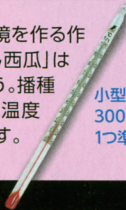
5 覆土して軽く指先で鎮圧します。そして、この状態のまま灌水せずフタをして涼しい日陰に一日放置します。この一日でゆっくりゆっくり種子が吸水します。(水をやらずに一日放置するのがコツです。)これで播種作業は完了です!

必ず日陰で一日放置します。
とても重要な作業です。



6 ここからが種子を発芽させるための環境を作る作業に入ります。緑り返しますが、「種なし西瓜」は非常にデリケートです。気合いを入れましょう。播種箱よりも少し大きめで、厚めのビニール袋と温度計を準備します。温度計を培土に差し込みます。

小型のガラスの棒温度計。
300円位で売っているので、1つ準備しておきましょう。



7 播種箱をビニール袋に入れて口を縛ります。このときビニール袋の中に空気をたくさん入れておくことと空間が広く使えて良いです。セットが終わりましたら直射日光の当たる所へ設置します。地温の目標は30~35℃、晴天日の直射日光が当たっていれば3月でも地温は確保出来るはず。その間、ビニール袋で密閉されているため乾燥しません、灌水は不要です。



8 温度計のチェックはまめに行います。なるべく目標の30~35℃を維持したいですが、晴天日ばかりではありませんので、努力目標とします。逆に38℃を超えないよう注意し、超えるようなら日陰に移します。温度が確保出来ない場合は種子の活動が鈍るため発芽に時間がかかります。夜間は室内に取り込みなるべく暖かい所へ置き、最低地温15℃を確保します。発泡スチロールの箱へ入れるのも良い方法です。(注意! コタツの中やストーブの近くに置いてはいけません。急激に温度が上がります。)

9 温度計のチェックをしながら管理を続けます。焦らず 慌てず じっくりと待ちます。

10 二日目...三日目... 四日目...待ちます。

11 来ました! 5日目から発芽が始まりました。ここからは最高温度を30℃までとして徒長させないように、また、乾燥させないように、慎重に育苗します。ビニール袋の口を徐々に解放し空中湿度を落としていきます。



12 播種より約2週間、ふた葉がほぼ展開し鉢上げの時期となりました。発芽率80%、「種なし西瓜」としてはまずまずですね。ちなみに、「種なし西瓜」のふた葉はキレイには開かないのでこれで正常です!



これで貴方もプロ級の腕前!
仲間にも一目置かれますよ!
ちなみにこの方法は他の色々な果菜類に応用がききます。
ぜひ、お試しください。



<タネなし全品種共通>3Xスイカ栽培のポイント

①育苗のポイント:種を蒔いて覆土したら、上からの灌水は行わず、無加温で一晩置いて種子がゆっくりと培土の水分を吸い上げるのを待って下さい(余分な水分は禁物。蒸散が激しい場合は濡れた新聞紙で覆う)。翌日から加温。3X品種は発芽適温28~30℃で、タネ有り品種よりも高めなので注意。

②草勢が強くなり過ぎない様に:台木は草勢大人しめの品種を選び、元肥はタネ有り(2X)品種より20~30%減肥して。

③仕立て方:ハウス作型は株間55~60cmの2本仕立て1果穫り(3本仕立て1果どりでは空洞果が発生)。トンネル作は株間80cm前後の4本仕立て2果穫りが良い。4本仕立ての場合、定植後が低温傾向だと側枝発生が2Xよりもやや不良な為、親ツル摘芯の節位を上げるか子ツルを再摘芯して揃ったツルを確保。

④交配方法:交配には種あり品種の花粉が必要(タネ有りならどんな品種でも可)。ハチ交配の場合、3X品種の所々に種あり品種を混植する。1ヶ所に種あり品種を集めると、ハチの往来が偏ってしまいます。混植本数は3X本数の10~20%程度あれば良く、果皮色の異なる2xを用いると見分け易い。

⑤交配後の管理:3X品種は、開花期前後の日照量が少ないとシナ(未熟種子)及び空洞果が増える為、開花後2週間は最低15℃以上を確保し、初期肥大を促す。開花期に草勢弱い場合を除き、主ツル先端の小さい所で摘芯し肥大促す。着果後も草勢落ちない場合は、生長点を整理して草勢をコントロールしましょう。

栽培型	月	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ハウスI				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
大型トンネル				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
トンネルI				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
トンネルII				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

ブラックジャックとサンバSPの使い分け

	ブラックジャック	サンバSP
外皮色	極めて濃い濃緑~黒色	濃い濃緑色
縞柄	縞は無い	縞が薄っすら見える
肥大	6~8kg	6~9kg
草勢	(3Xとしては)大人しい	強い
糖度	12.5度程度	12.5度程度

2品種の最大の違いは、「外観」と「草勢強さ」。より黒に近い外観をお求めであれば「ブラックジャック」になります。草勢の強い「サンバSP」は多果数着果の放任に近い栽培に好適。逆に草勢が大人しめの「ブラックジャック」は着果数を制限した整枝栽培が向いていると言えます。食感は「ブラックジャック」がやや硬め、「サンバSP」は中くらいの硬さになります。